Chance for Children

ANNUAL REPORT

2018 2019

公益社団法人チャンス・フォー・チルドレン
2018年度年次報告書

すべての子どもに機会を すべての子どもに夢を

特集1 CFCストーリー
出会いが生み出す希望

特集2 CFCストーリー
ブラザー・シスター 子どもと築く絆

©Natsuki Yasuda

共同代表からのメッセージ

2018年度も温かいご支援ありがとうございました

昨年度もCFCの活動を支えていただき、本当にありがとうございました。CFCは、プロジェクト発足から10年目、法人設立から9年目を迎えました。

これまで、活動に携わってきて、この活動の良いところは、「関わり方が変化し続ける」ことだと感じています。特に昨年は、印象的な出来事がいくつもありました。

私たちは、ある石巻市出身の中学生の女の子と、2011年に出会いました。高校卒業までの4年間はクーポン利用者として、大学入学からの4年間はCFCの大学生ボランティアとして、関わってくれました。そしてこの春、大学を卒業した彼女は、地元の石巻市に戻り、中学生の頃からの夢だった管理栄養士として、被災した地域の人たちを支えています。

また、CFCでは昨年、3名の職員が入職しました。いずれも大学時代、ボランティアとして活動してきた面々です。企業や行政などへの就職を経て、その経験を生かしてCFCの団体運営に携わっています。この他にも、大人になって、毎月の寄付を始めてくれた元クーポン利用者。寄付だけでなく、ボランティアとして関わり始めてくれたCFCサポート会員の方。一人ひとりのCFCへの関わり方は、変化し続けています。

CFCは、支え合いのコミュニティです。「支える側」と「支えられる側」といった、固定的で明確な隔たりを作るのではなく、その関係性は常に変化し続けます。支えられていた人が、支える役割を担うようになる。支えていた人も、支えてもらうときだってある。支えていると思っていた人が、実は自分自身が支えられていたということに気づく。そんな風に、共に支え合える関係性を広げていきたいと思います。

何より、私たち自身、子どもたちの頑張りからいつも力をもらい、支えてもらっています。きっと、そのように感じてくださっているサポーターの方も多いのではないでしょうか。報告書に掲載している子どもたちの声を通じて、その実感を得ていただきたいと思います。

これからも、この支え合いの輪を広げてまいります。今後とも、CFCの一員として、応援のほどよろしくお願いいたします。

共同代表
今井 悠介
（いまい・ゆうすけ）

1986年生まれ、兵庫県神戸市出身。小学2年生の時に阪神・淡路大震災を経験。関西学院大学在学中、特定非営利活動法人プレーンヒューマニティーで不登校生徒支援に関わる。大学卒業後、株式会社公文教育研究会（KUMON）に入社。その後、同社を退職。当法人設立・代表理事に就任。

共同代表
奥野 慧
（おくの・さとし）

1985年生まれ、新潟県南魚沼市出身。19歳の時に新潟県中越地震を経験。関西学院大学在学中、特定非営利活動法人プレーンヒューマニティーで国際交流事業に関わる。2011年3月から東日本大震災緊急支援活動に参画。その後、当法人設立・代表理事に就任。

2018年度年次報告書
ANNUAL REPORT
2018-2019

2019年8月発行

Contents

P.01 共同代表からのメッセージ
P.02 CFCの活動概要
P.03 特集1 出会いが生み出す希望
P.07 特集2 ブラザー・シスター 子どもと築く絆
P.09 CFC NEWS 2018-2019
P.09 Topics1 2018年度クーポン提供実績628名
P.11 Topics2 「CFCサポーターのつどい」を東京で開催
P.12 Topics3 スタディクーポンの政策動向
P.13 ご支援いただいた皆さま
P.15 財務・会計報告
P.17 今後の展開
P.18 CFCスタッフ等紹介

CFCの活動はSDGs達成につながります

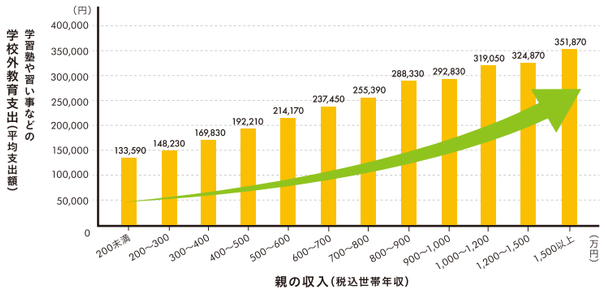
写真撮影 / 安田 菜津紀
デザイン・制作ディレクション / sai company

チャンス・フォー・チルドレン（CFC）の活動概要

課題 日本の子どもの教育格差は「放課後」で生まれています

日本では所得格差による教育格差が「放課後」で生まれています。経済的な困難を抱える子どもほど、学習塾や習い事など学校外での学習や体験活動に参加する機会を得られません。貧困の世代間連鎖を断ち切るためには、放課後の教育格差をなくす必要があります。

1年間の「世帯収入」と「学校外教育支出」の関係（中学3年生）

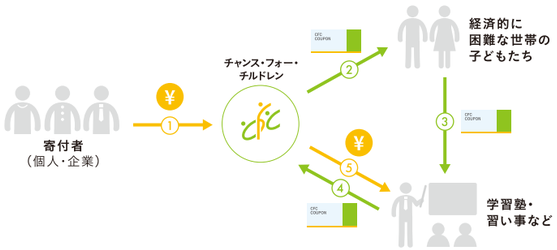


出典：国立大学法人お茶の水女子大学『平成25年度全国学力・学習状況調査（きめ細かい調査）の結果を活用した学力に影響を与える要因分析に関する調査研究』より作成。
※学校外教育支出が5,000円未満という回答は2,500円として、50,000円以上は50,000円として各世帯収入ごとの平均値を計算。

解決策 スタディクーポンの提供

CFCは、災害や家庭の事情で経済的な困難を抱える子どもたちに対して、学習塾や習い事などで利用できるクーポン券（15万～30万円分）を提供しています。活動の原資は寄付金です。

仕組み



特長

1. **クーポンの使途は教育に限定**
現金給付と違い、クーポンの使途は教育活動に限定でき、子どもたちに確実に教育機会を届けることができます。

2. **子どもは行きたい学習塾・習い事などを選択可能**
地域の学習塾の他、ピアノ教室やサッカー教室など、子どもは幅広い教育活動の中から自分の通いたい学習塾や習い事を選択することができます。

3. **大学生ボランティアによるサポート**
大学生ボランティア（ブラザー・シスター）が定期的な電話や面談を通して、クーポンの利用先や、子どもの学習・進路相談にのっています。

©Natsuki Yasuda　写真会場提供：特定非営利活動法人TEDIC

Chance for Children STORY
CFCストーリー

東日本大震災から8年。
年を経るごとに、
震災がもたらした問題はいっそう複雑化している。
直接的な被害だけでなく、心の問題、その後の家庭の姿にも
大きく影響を与えている。
しかし、様々な苦難を抱えつつも、希望を捨てず、
夢に向かって「学びたい」と思い続ける人々がいる。
CFCはその思いに寄り添ってきた。
クーポンが生み出す出会い。
悩みながらも懸命に前を向く子どもと、
学びを支えてきた恩師。
そして、それを見守る母――。
葛藤や苦しみと向き合いながら希望を見出してきた
親子と支援者の姿を紹介する。

チャンス・フォー・チルドレン
2018年度年次報告書

特集1

出会いが生み出す希望

取材・編集／辻 和洋　写真／安田 菜津紀

2018年度クーポン利用者

石塚めぐみさん（仮名）

Megumi Ishizuka

高校1年生（16）

震災が奪い去った日々

「マイボール！」。ラグビー部の部員たちの大きなかけ声が飛び交う高校のグラウンド。コートの脇で、高校1年の石塚めぐみさん（仮名・16歳）は、スポーツウェアをたたんだり、飲料水を用意したりしている。「ありがとう」。選手たちから感謝の言葉をかけられる。ラグビー部のマネジャーという新しい世界に飛び込んだ。「部員一人ひとりの誕生日は、みんなで祝います。雰囲気がよくて、とても楽しい」と笑顔で話す。

仙台市出身。「一人っ子のめぐみに親として残してあげられるのは、多くの人との出会いとチャレンジの機会」という母・良子さん（仮名・53歳）の思いもあって、幼稚園の頃から英語教室に通っていた。新しいことを見聞きすることが好きだった。

２０１１年、東日本震災が発生。小学1年の頃だった。自宅は半壊。なんとか住み続けることはできたものの、家は傾き、食器が大量に割れて散乱し、家具は倒れて損壊した。さらに、両親の故郷がある石巻市や南三陸町では津波が襲い、親戚の家屋で残ったのは9軒のうち1軒。困窮する親戚に物資を届けるため、両親は仙台から何度もトラックで往復した。一緒に訪れためぐみさんは「何もかもなくなっちゃった」と大泣きした。叔父と叔母の3人が行方不明に。一年後、遺体のないまま葬儀を行った。今も毎年3月11日には、叔父叔母が住んでいた近くの浜辺で手を合わせている。

母は、勤めていた仙台市内の温泉施設が被災して失職。父も半年以上、無職の状態が続いた。それから約3年後、両親が離婚。めぐみさんと母は「精神的にいっぱいいっぱい」だった。そして、母の故郷に移り住んだ。

一変した生活。「前向きに学んでほしい」

学校、家庭、地域、経済状況…。生活の全てが急変した。

母はこれまでの苦労がたたってか、起きられなくなったり、料理ができなくなったりした。今も病院に通い続けている。築40年以上の自宅にめぐみさんと母の二人暮らしで、生活水準も大きく変わった。母は

【上】苦しい時もあったが、前向きにコツコツと勉強に取り組めるようになった。【下】家庭教師の先生と遅くまで受験勉強に励んだ日々もあった。

「めぐみには不自由な思いをさせてしまった」と申し訳ない気持ちでいっぱいになった。そんな母の様子を知るめぐみさんは、仮設の集会所を訪れる移動販売のクレープ屋に行った時はクレープの半分を必ず持って帰り、「これママの分」と言って渡した。「一番近い存在のママ。ちょっとでも喜んでもらいたかった」

転校した小学校に慣れ親しめない時期があった。母が宿題を見ると、めぐみさんの字がとても汚くなったことに気づいた。それまで好きだった読書もしなくなり、「図書館に行きたくない」と言うようになった。不登校になった時もあった。

そんな中で「なんとか前向きに学べるようになってほしいけれど、なかなか塾にも行かせてあげられない」と、母はわらにもすがる思いで希望を託したのが、CFCのクーポンだった。再就職した仕事はパートタイムの小学校の補助員。母子2人で生きていくので精一杯だった。

震災直後の小学2年の頃にも、学校から配付されたクーポン利用者募集のチラシを見て申請したが、落選。「倍率が高くて難しいのかな」と思ったが、再度申請した。「当たったよ！」。自宅に郵送されてきた採用通知に2人で飛び上がって喜んだ。「ママが一人で大変だから、負担をかけずに勉強ができる」

クーポンのおかげで家庭教師に来てもらえることになった。先生が丁寧に勉強を教えてくれた。月に一度「ブラザー・シスター」の大学生が電話で悩みなどを聞いて気にかけてくれた。そのおかげで、徐々に勉強に前向きになれた。

家庭教師との二人三脚

中学生になると、新しい家庭教師の木本奈々枝先生（仮名・36歳）が担当してくれた。木本先生は、初めて会った時、おもむろに教科書を嗅ぎ、冗談交じりに「臭いね」と言った。「変わった先生だなぁ…」と笑った。

「何かわからないことない？」。木本先生はそう言って、苦手な数学や理科を解説してくれた。そしてうまく計画が立てられないめぐみさんの性格を見越して、「明日はこれ、明後日はこれね」と細かく予定表を作ってくれた。

勉強のこと、学校生活のこと、家庭のこと――。ざっくばらんな木本先生には自然と何でも話せた。めぐみさんにとって「親戚のお姉ちゃんのような存在」だった。友達とうまくいかず、学校に行くのが嫌になった時は「そうだよね」と言って寄り添ってくれた。「今日はなかったことにしていいから」と授業をやめ、悩みをずっと聞いてくれた。涙がポロポロとこぼれ落ちた。めぐみさんと母が衝突した時も、木本先生はお互いの気持ちに耳を傾け、間に入って関係を取り持ってくれたこともあった。

高校受験を控えた中学3年。明るい校風に惹かれ、行きたいと思った高校は、有数の進学校だった。中学2年の頃、中学の先生に「夢のまた夢」と言われていた学校。しかし、木本先生は「いや、めぐみさんならいける」と断言。実力テストの結果は進学校の合格レベルには到底及んでいなかったが、「飲み込みが早いめぐみさんなら、実現できる」と励ましてくれた。

それから二人三脚の日々が続いた。木本先生は、数学の文章題では「めぐみさんは文章を読まない癖があるから、まず3回読みなさい」とアドバイス。中学1、2年の問題も徹底して復習し、深夜になったこともあった。めぐみさんが問題を解いていると、いつも横でラジオ体操をする木本先生。「変だな…」と思いつつも、緊張をほぐそうとしてくれる先生に心が和んだ。気がつけば受験直前の冬には、学力がぐんと上がっていた。

受験日の直前まで毎日のように木本先生と一緒に対策を重ねた。「一緒に住んでいるみたいだね」と笑った。中学の担任の先生や技術の先生は、合格祈願のお守りなどを手渡してくれた。受験の前日には、母は験（げん）担ぎのカツ丼を用意して「みんなの力を貸してください」と、木本先生や親戚に渡した。

受験当日。「階段がきつくて危ないから、絶対に神社には行かないでね」。めぐみさんは、受験会場まで送ってくれた足の悪い母にそう言って別れた。しかし、母はいてもたってもいられなくて、1時間かけて学業の御利益で有名な神社へ願かけに行った。母は「こんなに頑張ったんだから」と念じ続けた。

合格発表の日は、母と受験校へ向かった。「最後、見届けてください」と頼む母に押されて、木本先生と、近くまで送り届けてくれた木本先生の夫も付き添ってくれた。発表時間になると、高校の玄関の横に掲示板が立てかけられた。吹奏楽部のファンファーレが鳴る。4人で受験番号を探した。「あったー！」。めぐみさんと木本先生は、抱き合って喜んだ。

感謝と夢。「この世界のたくさんの景色を見たい」

「悩んで苦しんでいる時のママも知ってる。迷惑をかけないよう、勉強頑張ろうって。高校に受かったら喜んでくれて、少しは親孝行できるかなと思って。木本先生がいなかったら、頑張れなかった」とめぐみさんは話す。母も「木本先生と一緒でなければ、ここまで来られなかった。親にも言えない悩みを抱える思春期に、めぐみと1対1で向き合ってくれた。本当に感謝です」と涙ぐむ。「スタディクーポンが、人生を変えるような出会いをつくってくれました」

「それと、パパ…」。めぐみさんの思いはそれだけではなかった。数年前、離婚した父はその後、がんで他界。連絡を取っていなかった父の病気を偶然知り、最期は母と一緒に看取った。父を恨んだこともあった。でも、亡くなる直前、病床で「俺の病気が治ったら、また一緒にいてほしい」と願っていた父がいた。「パパが生きられなかった分も、この世界のたくさんの景色を見たい」

将来の夢。今はウェディングプランナーに興味がある。数年前、若い頃に結婚式を挙げていなかった祖父母が、ホテルのキャンペーンでタキシードとウェディングドレスを着させてもらった。祖父80歳、祖母78歳。家族と一緒に記念撮影をした。祖父母は恥ずかしそうにしていたが、とても嬉しそうだった。「人を幸せにできる仕事っていいな」

これからたくさんの出会いとチャレンジが待っている――。めぐみさんは希望に胸を膨らませ、新たな一歩を踏み出した。

「ブラザー・シスター」の永沼美智さんと話す石塚さん。永沼さんのことを「いつも私のことを気にかけてくれていた存在」と感謝する。

Chance for Children STORY CFCストーリー

Brother Sister

特集2

ブラザー・シスター 子どもと築く絆

CFCは子どもたちにクーポンを提供しているだけでなく、安心して学べるよう、継続的にサポートを行っている。その中心となっている「ブラザー・シスター」（通称・ブラシス）と呼ばれる大学生ボランティアたちの姿を紹介する。

CFCの活動を支えるブラシス

「えーよかった！おめでとう！」。3月末、大学4年の**永沼美智（22）**は、石塚めぐみさん（仮名）から高校合格の知らせを聞き、思わず仙台事務局で叫んだ。1年間、石塚さんのブラシスとして電話面談を続けてきた。石塚さんが家でも近くの大学図書館でも受験勉強に励んでいるのを知っていた。最も嬉しい瞬間だった。ブラシスを始めて4年目。様々な子どもたちと向き合ってきた。「友達でも家族でもなく、電話で顔が見えない関係だからこそ言えることもあると思っています。物理的に一緒にいなくても、心の居場所になれたら」と話す。

ブラシスは、月に一度、担当している3～5人の子どもたちに、スタディクーポンの利用状況を聞き、学習や進路などの相談に乗る。東北や関西など、広範囲に住んでいる子どもに対して継続的に相談に乗り、専門家や職員らと連携して様々な課題に迅速に対応できるよう、仙台事務局から電話を通じて面談を行っている。

現在、仙台市内の大学生計76人が在籍。子どもの居住エリアに分かれ、それぞれのグループのブラシス同士やCFC職員で話し合い、子どもとのより良い関係づくりに努めている。将来、教師や看護師など子どものケアに関わる仕事を目指す学生が多いが、これまでシステムエンジニアや研究員、証券会社の社員などの仕事に就いた学生もおり、領域は幅広い。大学生は 説明会に参加した後、福祉や対人援助などの専門家による養成研修を経て晴れてブラシスとなり、子どもとの電話面談を始める。また、その後も不登校や発達障害、キャリア教育など、必要な知識やスキルに関するテーマを取り上げ、それぞれの専門家を呼んで研修会も行っている。

様々な思いを持って子どもたちと向き合う

大学3年の**鈴木梨里子（20）**は、電話越しに泣きじゃくっている子どもに「話せるようになったら話してくれていいし、次の時でもいいよ」と優しく語りかけた。深く耳を傾けると、子どもは少しずつ悩みを打ち明けてくれた。自身は母子家庭で育ち、「クーポンを利用する子どもたちに似た経験をしてきた私だからできることがあるかもしれない」と思い、ブラシスに加わった。「家庭の金銭面を気にして進路を考えている子がいて…。すごくわかるなって思って。一つひとつの選択を応援してあげたいと思っています」と話す。

大学3年の**阿部月乃（20）**は南三陸町出身で、小学6年の頃に被災。家族は無事だったものの、近くの人々が亡くなったり、家が流されたりした。「あの時、何もできなかった。今なら少しでも役に立てるかもしれない」とブラシスになった。「今じゃなくても、何年後かにでも、応援するブラシスの存在が頑張れるきっかけになってくれたら」と思う。

子どもたちの悩みに寄り添い、共感し、ともに考える――。ブラシスは様々な思いを持って、真摯に子どもたちと向き合っている。

「謙虚に学び合う」。ブラシスの文化

5月17日午後7時。仙台市内の公共施設の一室に、ブラシスが9人集まった。月に一度のミーティング。学生らは紙に、「good story」と「気になること」を書き始める。子どもたちとの電話面談でのやりとりを振り返り、匿名化した上で、ブラシス同士で情報共有する。「今年もクーポン使えるようになって、苦手な英語も頑張ってるみたい」、「よかったねー！進捗聞くのが楽しみだね」。「話の切り方が難しくて…」。約2時間、グループや全体で話し合った。

「電話は1対1ですが、ブラシスが集まって知恵を出し合うことで、みんなで子どもをサポートしようとしています」。大学2年の**佐々木寛治（20）**はブラシスを始めた頃、子どもと話すのに緊張して40分前から電話の前に座っていた。しかし、今では「子どもの声のトーンも気にしながら話せるようになりました。先輩たちから学べることも多いです」と話す。阿部も「子どもたちと話が続かなくて、悩んだ時もあった。先輩たちが親身に話を聞いてくれて、助けてもらいながら頑張れています」と語る。

CFC仙台事務局の職員、吉岡新は「謙虚に学び合うブラシスたちの風土が生まれている」と話す。それは、『目の前にいる子どものためになりたい』というブラシスたちの気持ちから来ているもの」だという。ブラシスたちは、通り一遍の対応をすることなく、常に子どもたちとどう関わるか、個々の状況に応じて深く考えて接している。「私たち職員は、ブラシスと子どもが安心して関わることができるよう、専門家と一緒になってバックアップしています」

立場を変えて子どもを支える

ブラシスの制度が始まって8年。支援の循環も生まれている。クーポン利用者が大学生になるとブラシスに、ブラシスが社会人になると寄付者になり、立場を変えて様々な形で子どもたちを支えている。東日本大震災で被災し、クーポンを利用していた**千葉碧さん（22）**は「私がクーポンをいただいていた立場だから何かできることがあるかもしれない」と、大学に入学してすぐにブラシスになった。現在は大学を卒業し、石巻市内で夢だった管理栄養士として働いている。宮城県から上京し、IT企業に就職した元ブラシスの**菊田沙樹さん（25）**は「学生にしかできないこともあれば、社会人にしかできないこともあると知った。今、私ができることをやりたい」と寄付者になった。

前に向かって走る子どもたちは、時にはつまずきそうになることもある。しかし、そばにはいつもブラシスたちが伴走し、寄り添い続けている。

CFC NEWS 2018-2019

Topics
1. 2018年度クーポン提供実績628名
2. 「CFCサポーターのつどい」を東京で開催
3. スタディクーポンの政策動向

CFC NEWS 2018-2019
Topics 1

2018年度クーポン提供実績628名

Writer
仙台事務局スタッフ
吉岡 新

2016年に大阪市塾代助成担当としてCFCに入職。2018年から仙台事務局に勤務し、ブラザー・シスターのマネジメントやクーポン事業全体を統括している。

628名の子どもに届いたクーポン

2018年度は、628名の子どもたちにクーポンを提供することができました。個人や団体、CFCサポート会員の皆さまのおかげで、計1億1235万円の寄付が集まりました。

2018年度は、前年度に引き続き、東日本大震災で被災した子ども支援（CFC東日本）、関西の貧困世帯の子ども支援（CFC西日本）を行いました。また、大規模災害被災地の緊急支援として、西日本豪雨で被災した子ども支援（岡山スタディクーポン）を実施しました。岡山スタディクーポンは、認定NPO法人カタリバと共同で運営し、情報周知などの面でNPO法人岡山NPOセンターに協力をいただくなど、地域で活動を行う支援団体と連携して実施しました。

図表2は、CFCのクーポン利用者数の推移です。2018年度は、過去最高の628名を支援することができました。2019年度は、447名を支援する見込みです。利用者数が減少した理由の1つは、西日本豪雨で被災した子どもたちへの支援について、2019年度は、一人当たりのクーポン提供金額を15万円に増額し（2018年度は5万円）、特に困難度の高い世帯の子どもに重点的に支援を行うためです。

新しく、低所得世帯の不登校生徒支援を試行実施

2017年度から新設した随時支援枠は、家庭の養育環境が不十分などの理由で通常のクーポン利用者募集時に応募が難しい子どもに、随時、自治体や支援団体と連携してクーポンを提供する制度です。2018年度は、この枠組みで9名を支援しました。

また、CFC東日本では新たに、低所得世帯の不登校の中学生を対象とした「不登校生徒支援枠」を試行的に設け、7名を支援しました（助成：公益財団法人東日本大震災復興支援財団）。

震災後、宮城県では不登校の子どもが増加しており、不登校生徒出現率が全国平均比でも高い水準にあります（図表3）。そして、CFCが2015年に発刊した「東日本大震災被災地・子ども教育白書」では、低所得世帯の子どもほど、不登校経験のある子どもの割合が多いことが明らかになっています。

不登校の子どもには、学校外で学ぶ場が不可欠ですが、低所得世帯の不登校の子どもたちは経済的な理由で、学校外で学ぶ機会を得るのが難しい状態です。本支援枠は、このような低所得世帯の不登校の子どもたちに対して、支援機関と連携して効果的なサポートを行うために設置しました。

約9割の子どもが希望の進路に

クーポン利用者の中学3年生と高校3年生に対して行った進路調査では、高校進学率は100%、大学等進学・正規雇用就職率は86.4%、希望進路達成率は88.3%という結果でした。クーポン利用者は、高校卒業後に進学する子どもが80%を超えていますが、就職を希望したり、大学に通いながら働いたりする子どももいます。

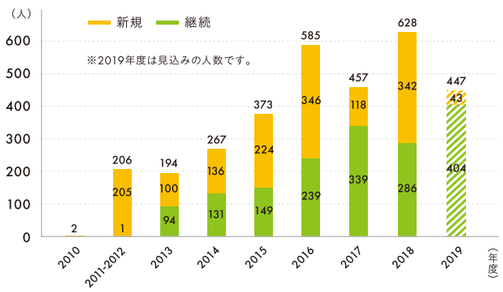
一方、進路が決まらずに卒業してしまう子どもたちについては、継続してフォローが必要であるため、2019年度からは高校卒業後も1年間延長してクーポンを利用できるようにしました。これからも子どもたちが希望の進路を見つけ、進んでいくことができるよう、サポートを続けていきます。

図表1 2018年度クーポン利用実績

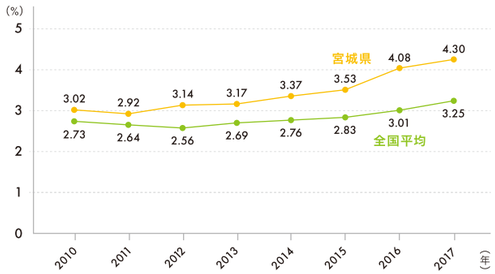
	CFC東日本	CFC西日本	岡山スタディクーポン※1（大規模災害被災地緊急子ども支援）	合計
対象者	東日本大震災で被災した小学生から高校生	関西地域に居住する生活保護受給世帯の小学生から高校生	西日本豪雨で被災した岡山県の中学3年生、高校3年生	
クーポン利用期間	2018年4月1日～2019年3月31日		2018年11月1日～2019年3月31日	
クーポン給付額	9,915万円	955万円	420万円	11,290万円
	1人当たり：小学生15万円、中学1・2年生および高校1・2年生20万円、中学3年生・高校3年生30万円		1人当たり：5万円	
クーポン利用者数	500名 小学生：187名、中学生206名、高校生106名、高卒認定受験生1名	44名 小学生13名、中学生19名、高校生12名	84名 中学生59名、高校生25名	628名 小学生：200名、中学生284名、高校生143名、高卒認定受験生1名
クーポン利用率※2	83.8%	87.8%	83.3%	84.1%
クーポン利用先数	860教室	230教室	43教室	1,133教室
面談回数	1,628回	277回	–※3	1,905回
進路実績※4 高校進学率	100.0%（92名／92名）	100.0%（6名／6名）	100.0%（54名／54名）	100.0%（152名／152名）
進路実績※4 大学等進学・正規雇用就職率	83.3%（15名／18名）	80.0%（4名／5名）	90.5%（19名／21名）	86.4%（38名／44名）
進路実績※4 希望進路達成率	92.7%（102名／110名）	81.8%（9名／11名）	82.7%（62名／75名）	88.3%（173名／196名）
審査基準	新規※5：世帯所得状況、学習・進学意欲（中高生のみ）、学年、学校外教育の利用状況 継続：世帯所得状況、当該年度のクーポン利用状況	新規：学習・進学意欲（中高生のみ）、学年、学校外教育の利用状況 継続：生活保護受給状況、当該年度のクーポン利用状況	新規：被災状況（住家被害、人的被害）	

【※1】岡山スタディクーポンは、認定NPO法人カタリバとの協働事業。カタリバが事業費の半分を拠出している。【※2】クーポン利用率は、利用額／給付額。利用されなかったクーポンは次年度以降のクーポン費として充当される。【※3】岡山スタディクーポンは大規模災害被災地緊急子ども支援のため、面談は実施していない。【※4】アンケート回収率は、CFC東日本90.2%、CFC西日本91.7%、岡山スタディクーポン89.3%。【※5】随時支援枠と不登校生徒支援枠については、指定機関（自治体・支援団体等）より推薦・紹介を受けた生活困窮者より申込を受け、先着順で利用者を決定。

図表2 クーポン利用者数の推移



図表3 中学生の不登校生徒出現率



出典：文部科学省「平成29年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果について」、宮城県教育振興審議会（2016）「宮城県の教育の現状等について（追加資料）」および宮城県「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査（宮城県分）の結果について」（平成27～29年度）からCFC作成。

まだまだクーポンの提供が足りていません

依然、多くの子どもたちがクーポンの申し込みに落選

CFCでは、クーポンを届けることができる人数は寄付金額によって決まります。このため、2019年度は、新規利用者の定員43名に対して、358名の応募がよせられ、8人に1人の子どもにしかクーポンを届けられていません。応募者の保護者さんからは「子どもの進学を何とか応援してあげたいのですが、私一人の力ではどうすることもできず、申し訳ない思いでいっぱいです」といった切実な声も寄せられています。支援を拡大し、一人でも多くの子どもたちをサポートしていくことが必要です。落選してしまった子どもたちにも、一刻も早く支援を届けられるように、スタッフ一同、引き続き全力を尽くします。

クーポンを届けられた子どもの割合

8人に1人

定員43名に対し358名が申し込み

CFC NEWS 2018-2019

いつもご支援くださり
ありがとうございます！

Topics 2

「CFCサポーターのつどい」を東京で開催

Writer
東京事務局スタッフ
入安 にろ

東北大学在学中に東日本大震災を経験し、ブラザー・シスターとしてCFCの活動に携わる。IT企業に勤務後、2018年にCFCに入職。広報・ファンドレイジング業務を担う。

サポーターと子どもたちの交流会「CFCサポーターのつどい」を実施

プロジェクト発足から10年目となった2018年、毎月継続した寄付で子どもたちを応援するCFCサポート会員の人数が1000名に到達し、2019年3月末には、1094名となりました。いつもご支援をいただいている皆さま、本当にありがとうございます。

また、2019年3月には、東京都内で「CFCサポーターのつどい」を開催しました。当日は、CFCサポート会員の皆さま、協賛企業の方々に加えて、クーポンを利用している福島県の高校生が参加して、スピーチをしてくれました。

また、CFCのスタッフやブラザー・シスターも交えて、参加者同士でお話をする機会も設けました。参加者の方からは、「直接子どもの声を聴くことができてよかった」「他の参加者とCFCの活動への想いを共有することができた」「協賛企業の取り組みを知ったり、スタッフと話をしたりすることができて、活動に対する理解が深まった」といった感想をいただきました。

2019年度以降も継続して、活動報告の場を設けていく予定ですので、支援者の皆さまは、ぜひご参加ください。

CFC NEWS 2018-2019

Topics 3

スタディクーポンの政策動向

Writer
関西事務局スタッフ
有銘 佑理

沖縄県那覇市出身。沖縄にて市民交流事業や観光業に携わり韓国語翻訳・通訳業務に従事。2015年、CFCに入職し、大阪市塾代助成事業を担当。

渋谷区がスタディクーポンを政策化

これまでCFCが先行してきたスタディクーポンの取り組みを、全国の政策として広げていくために立ち上がった「スタディクーポン・イニシアティブ」。2017年にクラウドファンディングで集まった寄付金を原資に、渋谷区との協働プロジェクトが始まりましたが、2018年4月からは、渋谷区内の中学3年生54名がクーポンの利用を開始しました。

渋谷スタディクーポン事業は、外部評価者の岩田千亜紀氏（東洋大学社会学部社会福祉学科助教）が事業評価を行い、中間報告書が発行されました（最終報告書は2019年度中に発行予定）。中間報告書では、子どもの学習時間の変化や学習への前向きさにポジティブな変化が見られたことに加え、渋谷区内の子ども・保護者からのニーズの高さ、生活保護受給世帯の子どもの捕捉率の高さ、ブラザー・シスター制度やスタッフによるフォローを通じて経済面以外の子ども・家庭の困り事の発見につながったことなどが高く評価されました。

これらの結果を受けて、渋谷区では2019年度より公的資金を原資にスタディクーポン事業を政策化することを発表し、渋谷区福祉課における生活保護受給世帯の子どもの学習支援事業に組み込まれました。本学習支援事業の運営は、CFCと株式会社キズキの共同事業体が担います。

図表1

クーポンでの学校外教育支援導入自治体
（2019年8月現在）

スタディクーポンが全国の自治体に広がる

2018年度には、佐賀県上峰町でも渋谷区に先行して政策導入が実現し、185名の子どもたちに、スタディクーポンを提供しました。また、千葉市も2019年度よりスタディクーポンの仕組みを政策導入し、千葉市内の生活保護受給世帯のひとり親家庭の小学生に対して、「千葉市こども未来応援クーポン」を提供する事業を開始しました。

大阪市では、2012年度より「大阪市塾代助成事業」を継続していますが、2018年度は市内の約5割（約3万人）の中学生を対象に、月額1万円分の助成を塾代助成カード（ICカード）にて提供しました。運営は、CFCと凸版印刷株式会社の共同事業体が担っています。

2019年度は、大阪市、渋谷区、佐賀県上峰町、千葉市といった4つの自治体が主体となって実施するクーポンによる教育支援事業の運営をCFCが担う予定です。CFCが東北と関西で立ち上げた事業が、少しずつ自治体の政策として広がり始めています。今後は、さらにこの動きを加速化させ、全ての子どもたちが学校外の多様な学びのチャンスを得られるよう取り組んでいきます。

今すぐ読めます

「学ぶ」を深掘るウェブマガジン「スタディ通信」創刊

CFCは、プロジェクト発足から10年目の節目に、全国の子どもたちの教育支援に関わってきたNPOとして、改めて「学ぶ」ことの意味を考え、発信するために、小さなウェブマガジンを創刊しました。『スタディ通信』では多種多様な「学ぶ当事者」や「学びを支える人々」に光を当てながら、定期的に記事を配信していきます。

スタディ通信　検索

https://cfc.or.jp/study/

個人支援者

2018年度は、1,094名のCFCサポート会員さまと、1,200名以上の寄付者さまからご支援をいただきました。

CFCサポート会員

加藤 碧さま 化学メーカー 営業

色々な事情により厳しい環境にいる子どもたちへ、何かサポートをしたいと考えていたところ、偶然CFCの活動説明会に参加し、寄付を始めました。私は化学メーカーで商品のマーケティングや販売に携わっているのですが、CFCへの小さな寄付を通じて、少しでも子どもたちと繋がりを持つことができるのを嬉しく思っています。一人ひとりの子どもたちが、将来像や目標を描き、それがきっと叶うと信じて目指せるように、CFCを通じて応援していきたいと思っています。

CFCサポート会員

根本 陽香さま 飲食店スタッフ 管理栄養士

私は、福島県で東日本大震災を経験したことがきっかけで、約2年前まで、CFCのブラザー・シスターとして活動していました。大学卒業を迎えたとき、これから被災地との関わりが途切れてしまうということがもどかしく、これからも関わり続けたいという気持ちで、CFCへの寄付を始めました。社会人となった今、当時を振り返る機会はなかなかありませんが、CFCの活動を目にするたび、子どもたちと面談をしていたころの気持ちを思い出しています。これからも、子どもたちを応援していきたいと思います。

CFCサポート会員

早川 鋭さま ICT企業 社会貢献担当

日本の子どもの7人に1人が貧困…。この意外な数字にショックを受けました。そして、そのような子どもたちに、行政をはじめとした支援が届いていないことに更に驚きました。社内で開催された社会課題ワークショップでCFCの活動を知った私は、合理的かつ効果的な取り組みに共感し、この活動を支援したい、そして多くの人に知ってもらいたい、と思いました。その後、私が主催した講演会に話題提供いただくなど、寄付以外の繋がりも持つことができました。今後も色々な形でCFCを応援したいと思います。

個人寄付者

高原 利雄さま ユニ・チャーム株式会社 創業者

新たな価値を生み出し、世の中に広く普及させていくことは簡単なことではありません。試行錯誤を重ねながら、少しずつその価値に共鳴してくださる人々を増やしていく。CFCは、「学校外の多様な学びの機会を、経済状況に関わらず、すべての子どもたちに届ける」というミッションのもと、子どもたちへ確実に教育機会を届けることができる“スタディクーポン”という新しい仕組みをつくり、社会のインフラとして浸透させようと奔走しています。若い人たちのこの壮大なチャレンジを心から応援します。

CFCクーポン取扱事業者

※匿名希望者は掲載していません。※敬称略、五十音順

re株式会社 / 愛澤教育会 / 株式会社あおがく（進学塾仙台あおば学舎）/ あおぞらそろばん塾 / AQUA進学ゼミナール / アクロポート株式会社 / Assist学びホーダイ学習塾JOY PROJECT / 特定非営利活動法人アスイク / 株式会社アチーブ / 有限会社アトリエ・デ・くっきぃず / 公益財団法人尼崎市スポーツ振興事業団 / イー・エフ・エデュケーション・ファースト・ジャパン株式会社 / 株式会社イーオン / 株式会社ECC / 株式会社イーブレイン / YES株式会社 / いしぶみ塾 / 株式会社市進ホールディングス / 伊東義塾 / イリナミュージカル合同会社 / Englishアカデミー / 株式会社WITS / 有限会社ウィング / ウェーリタース英語数学塾 / 株式会社うすい / 英会話スクールFAN / 株式会社栄光 / 英語専門塾Expert / 英智学館 / 英智学館株式会社 / AAO進学ゼミナール / エース進学塾 / A.T.スタディ・ルーム / ABCアカデミー / 笑顔でこたえるパソコン教室 / 株式会社Xist / 株式会社エコールソフトウェア / 株式会社エスプリライン / 株式会社エスポコーポレーション / 株式会社エデュケア / 株式会社エデュケイションジェイムズ英会話 / 株式会社エデュケーショナル / 株式会社エデュマン / 株式会社エムシーエス生涯学習センター / 株式会社M'sグロース / Ms school / 株式会社エムズテニスパーク / LFCサンファンガールズ石巻 / LL学習塾真備校 / 円覚塾 / 株式会社鷗州コーポレーション / 大石スクーリング / 株式会社大阪教育研究所 / 大沼学院 / 有限会社カール英会話ほいくえん / 学習教室サンスタディ渡波中央教室 / 学習教室「リトルラム」/ 学習塾オーバス / 学習塾リックス / 一般財団法人学習能力開発財団 / 学研エデュケーショナル北日本支社 / 株式会社学研スタディエ / 有限会社家庭教育情報センター / 家庭教師, with / 家庭教師・学習塾アトムズ / 家庭教師プレンティ / 株式会社KATEKYOグループ / 有限会社カトウ / 株式会社かなでる / CAPOEIRA CORRENTE NEGRA JAPAN / カラフル学舎 / 株式会社キクヤ楽器店 / KIDS SPORTS / 公益財団法人教育振興協会 / 株式会社クーバー・コーチング・ジャパン / 熊谷マリンバ・打楽器教室 / KUMAMOTO VOCAL・ピアノスクール / 株式会社グラークス / クライミングジムBOLZ / 特定非営利活動法人Cloud JAPAN / 株式会社グランディアコーポレーション / 一般社団法人くりこま高原自然学校 / グレイス英語教室 / 株式会社CRERIA / 株式会社Global Assist / 有限会社グローバル・スポット・エム / KEIスポーツ株式会社 / 蛍雪進学教室 / 啓明ゼミナール / 有限会社慶和学院進学研究所 / K学習塾 / ケンブリッチイングリッシュスクール / 合格屋MAX / 神戸フリースクール / 子どもが自然と遊ぶ楽校ネット / こどもプログラミング教室イーラボ / こども未来塾 / こども料理教室こぐま料理舎 / 株式会社コバルトーレ / 個別学習塾トラスト / 個別指導学院ヒーローズ安積校 / 株式会社個別指導塾スタンダード / 個別指導レビュー総社駅前校 / 株式会社コム・ジャパン / コモ有限会社 / サカモト学習塾 / 桜塾 / 株式会社さなる / 株式会社SUNSIST / 三楽書道教室 / 三楽そろばん教室 / 有限会社ジー・エス・ケー / C3進学アカデミー / 株式会社シーディアイ / 株式会社JTC企画 / 株式会社志雄館 / 実戦空手道琢磨会 / 島村楽器株式会社 / 株式会社ジャストシステム / 株式会社ジャパン交通旅行センター / 株式会社秀英予備校 / 受験指導学習塾まなび舎 / 松陰塾倉敷中島校 / 株式会社小学館集英社プロダクション / 城南コベッツ仙台宮町教室 / 株式会社乗馬クラブクレイン / 株式会社白沢プランニング / 進学教室スタディシム / 進学塾もみの木 / 株式会社進学会 / 有限会社新教育ゼミナール / 株式会社神賛社 / 株式会社真友社 / 有限会社スガワラ楽器 / 株式会社スクールマインズ / 株式会社ステージライン / 須藤こずえ音楽教室棚倉教室 / STUDIO BRIGHT / STORIES英会話&個別学習スクール / 株式会社スプリックス / 株式会社スリーフィールズ / 学校法人駿河台学園 / 株式会社成学社 / 株式会社誠泉エデュケーショナルリフォームズ / 株式会社聖文館 / セコー学院 / 株式会社Z会 / 特定非営利活動法人Selfish / 株式会社セレクティー / 有限会社善教舎 / 株式会社ゼンシン / 株式会社仙台進学プラザ / 株式会社仙台スイミングスクール / セントポーリア英会話スクール / セントラルスポーツ株式会社 / 総合学習塾まなび舎 / 株式会社創造学園 / 創造塾ロボット教室 / DIVERSE・ダイバーことばの発達支援・学習支援室 / TAIRAKO塾 / 株式会社拓人 / タクミ・イングリッシュ村 / 多田志学館 / たちばな塾 / 卓球教室東北卓球C&C / 田村ピアノ教室 / 株式会社DANCE&ART ASSOCIATION office 志儀 / DANCE STUDIO HEAT / 株式会社ダンロップスポーツウェルネス / 千葉美貴子ピアノ教室 / 株式会社チャンプ / 中高数学完全個別指導清野塾 / 株式会社つないだ手 / TEG合同会社 / 株式会社ディー・エフ・シー / 株式会社ティー・ケイ・インターナショナル / 株式会社diBec / 特定非営利活動法人寺子屋方丈舎 / 株式会社トライグループ / 株式会社トライグループ中国本部 / 有限会社中江珠算学院 / 有限会社ナカトク / 中畑珠友会 / 株式会社Nagi's English club / 特定非営利活動法人にじいろクレヨン / 日本習字大谷教室 / 有限会社二本松イングリッシュスクール / 一般社団法人のあっく自然学校 / 株式会社NOVA / NOVAホールディングス株式会社 / Nozomiプログラミング&Web株式会社 / 株式会社パーソナル・サポート / 有限会社バイトラーク / 株式会社ハイパーラーニング / hal学習塾上飯田教室 / ピアノ教室バニラ / 株式会社ビーシー・イングス / 合同会社ヒーローズ / 特定非営利活動法人ビーンズふくしま / 株式会社東日本学院 / 東の森進学会 / 株式会社ビッグハーベスト / 株式会社ヒューマレッジ / 株式会社ヒューマン・ブレーン / 平川ピアノ教室 / ファイト珠算教室 / 株式会社フージャースウェルネス&スポーツ / 有限会社フェニックス / 福島県スポーツチャンバラ協会相馬支部 / 株式会社福助屋商店サルコヤ / 藤田学習塾 / 株式会社ブライト / 株式会社プライマリー / 株式会社FLAGS / ブレーンバンク株式会社 / 株式会社Baseball Conditioning Systems / 株式会社ヘキサ / ベスト学院株式会社 / 株式会社ベネッセコーポレーション / 株式会社ベネッセビースタジオ / 株式会社ペンギンエデュケーション / 特定非営利活動法人ホールアース研究所 / 有限会社マキアカデミー / 松永塾 / 一般社団法人まなびの森 / まなび家 / みうらあつこ音楽教室 / 特定非営利活動法人MISO / みぞ塾 / みなみ英語塾 / 株式会社宮城県学校用品協会 / 宮城県スポーツ協会・同和興業・セントラルスポーツグループ / 有限会社宮城珠算振興会 / 特定非営利活動法人ミヤギユースセンター / みゆき英語学舎 / 株式会社明光ネットワークジャパン / 有限会社明窓塾 / 株式会社明友社 / 安永教育学院株式会社 / Yabuki英語クラブ / 株式会社ユーキャン / ユニアス株式会社 / ライフイズテック株式会社 / 株式会社楽天野球団楽天イーグルスアカデミー / 株式会社ラビット / 株式会社リックプレイス / 株式会社リビングウメダ / 株式会社リフレスポーツ / 柳下村塾 / 株式会社リンクアカデミー / 株式会社類設計室 / 株式会社レアリード / 株式会社練成会 / 株式会社YST進学研究会 / 株式会社ワオ・コーポレーション / 若葉伸学塾 / 特定非営利活動法人亘理いちごっこ

企業・団体支援者

※スペースの関係で、一定額以上のご寄付をいただいた方のみを掲載しています。また、匿名希望者は掲載していません。※敬称略

POKÉMON with YOU

Yahoo!ネット募金

日本航空株式会社

ハリー・ウィンストン・ジャパン株式会社

三菱地所コミュニティ株式会社
従業員の皆さま

「5」のつく日。JCBで復興支援

株式会社ファミリーマート

ARABAKI ROCK FEST.

株式会社オガノ

日本電気株式会社

Acadian Asset
Management (Japan)

花王ハートポケット倶楽部

株式会社東京スター銀行

ブルーオーシャンキャピタルLLC

時計専門店クォーク

株式会社エムアイ友の会

Pillsbury Winthrop Shaw
Pittman Foundation

TOKYO CHARITY CUP
2018

株式会社アックス・メアリー

株式会社大塚商会

CKD株式会社

株式会社バリューブックス

アイランドマーキュリー
株式会社

神楽坂毘沙門天
善國寺

三井化学株式会社／
三井化学株式会社ちびっと
ワンコイン

ベイン・アンド・カンパニー・
ジャパン・インコーポレイテッド

エーテンラボ株式会社

株式会社カマヌフラレア

国際ソロプチミスト
東京－新宿

ダイナメディックジャパン
株式会社

ベスト個別学院

株式会社エデュケイションジェイムズ英会話 / 丘のチャペルのおにわ市。for 3.11 children / 神楽坂おかみさん会 / 関西学院大学東京キャンパス丸の内講座有志一同 / 株式会社極東商会 / 株式会社公文教育研究会 / Classica / ソフトバンク株式会社 / 一般財団法人大吉財団スイミープロジェクト実行委員会 / 株式会社Tポイント・ジャパン / 株式会社デシベル / 2010オリーブの木 / 株式会社BE PROUD / モルガン・スタンレー・ホールディングス株式会社

助成団体

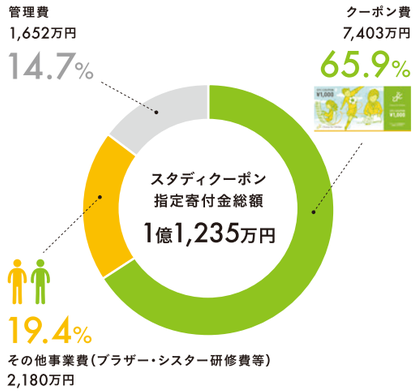
公益社団法人ハタチ基金

公益財団法人東日本大震災復興支援財団

スタディクーポン指定寄付金の使途 （※クーポン指定寄付金のみ。運営費指定寄付金を除く）

2019年度は9,770万円分のクーポンを447名の子どもへ提供

2018年度にいただいたCFC東日本・西日本・大規模災害クーポン事業への指定寄付金・賛助会費1億1,235万円のうち、65.9%にあたる7,403万円をスタディクーポン費として使用します。うち210万円分は、西日本豪雨支援のために2018年度中に提供しました。2019年度は、2018年度にいただいた寄付金に、過年度に提供したクーポンの未使用分等を加え、総額9,770万円分のスタディクーポンを447名の子どもに提供する予定です。



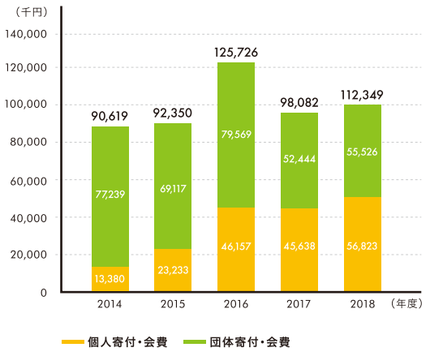
スタディクーポン指定寄付金・会費使途に関するお約束

1. **寄付金の85%以上※を子どもへの直接的な支援費として使用します**
   ※65%以上をスタディクーポン費、残り20%程度をその他事業費（プラザー・シスター研修費、調査研究費等）に充当。
2. **寄付金の15%未満を法人の管理費※として使用します**
   ※子どもたちを間接的に支えるための費用。管理を行う職員の人件費、広報費等。

スタディクーポン指定寄付金収入の年次推移 （※スタディクーポン指定寄付金のみ。運営費指定寄付金を除く）

団体として初めて個人寄付が企業団体寄付を超える

スタディクーポン指定寄付金の推移をみると、2018年度の寄付収入額は、前年度よりも1,427万円増加しています。背景として、西日本豪雨支援のための緊急募金666万円が集まったことがあげられますが、それを差し引くと、761万円の増加となります。5年間の傾向として、熊本地震緊急支援募金を行った2016年度を除くと、寄付金は微増しています。特筆すべき点として、2018年度は個人寄付の割合が全体の50%を超えました。個人寄付が拡大した背景として、2013年度から注力してきた、地道な講演活動やWEBサイトでの発信が功を奏し、CFCサポート会員が1,000人を超えるまで輪が広がったことが挙げられます（2019年3月末時点：1,094人）。また、企業の皆さまには、従業員や顧客と一体となった様々なチャリティ企画を立ち上げていただき、寄付金に加えて認知拡大にもご協力をいただいています。多くの子どもたちが支援を待っている現状を踏まえ、ファンドレイジングにさらに力を入れてまいります。



監事コメント

CFCは、貧困の世代間連鎖を断ち切るという目標に、具体的な行動でチャレンジを続けています。スタディクーポンの政策化は従前の活動の積み重ねの成果というべきものですし、個人寄付者の増加は、法人として丸8年にわたる着実な運営のあらわれです。このCFCの取り組みは、信頼性のある運営、適正な会計処理、透明性の高い情報開示によって支えられています。私たちは監査を通じて、CFCの活動が、子どもの貧困を解決する重要な切り札になると確信しています。一人でも多くの子どもがクーポンを利用し、夢をあきらめず充実した人生を創造するには、より効果的なファンドレイジングが必要です。一人でも多くの方々に寄付等の支援の輪を広げてもらいたいと心より願っています。

弁護士
津久井 進

公認会計士
藤井 美明

正味財産増減計算書の要旨 （2018年4月1日から2019年3月31日まで）

（円）

	科目	2018年度実績	2017年度実績	昨対比（%）
一般正味財産増減の部	1 受託事業収益	39,121,053	40,084,879	97.6%
	2 受取入会金・会費	1,610,000	1,965,000	81.9%
	3 受取寄付金等振替額（指定正味財産からの振替額）※	156,072,834	128,648,285	121.3%
	4 雑収益	64,361	191,968	33.5%
	収益計	196,868,248	170,890,132	115.2%
	1 事業費	178,568,971	153,913,395	116.0%
	自主事業（CFC東日本、CFC西日本、岡山）	129,383,079	116,845,463	110.7%
	人件費	21,315,688	26,200,638	81.4%
	クーポン利用額	92,897,365	80,672,540	115.2%
	その他事業費（プラザー・シスター研修費等）	15,170,026	9,972,285	152.1%
	協働事業（大阪市・佐賀県上峰町・東京都渋谷区等）	49,185,892	37,067,932	132.7%
	2 管理費	17,295,974	15,994,237	108.1%
	人件費	2,741,897	2,519,518	108.8%
	その他費用（地代家賃・事務費等）	14,554,077	13,474,719	108.0%
	費用計	195,864,945	169,907,632	115.3%
	当期経常増減額	1,003,303	982,500	102.1%
	当期経常外増減額	0	▲ 695,160	-
	法人税等	141,600	0	-
	税引後当期一般正味財産増減額	861,703	287,340	299.9%
	一般正味財産期首残高	6,667,361	6,380,021	104.5%
	一般正味財産期末残高	7,529,064	6,667,361	112.9%
指定正味財産増減の部	1 受取賛助会費	30,066,000	24,946,000	120.5%
	2 受取寄付金	85,933,393	93,576,877	91.8%
	3 受取補助金等	26,190,000	23,200,000	112.9%
	4 一般正味財産への振替額	▲156,072,834	▲ 128,648,285	121.3%
	当期指定正味財産増減額	▲ 13,883,441	13,074,592	▲ 106.2%
	指定正味財産期首残高	155,093,310	142,018,718	109.2%
	指定正味財産期末残高	141,209,869	155,093,310	91.0%
正味財産期末残高		148,738,933	161,760,671	91.9%

※ 受取寄付金等振替額には、協働事業への寄付が含まれています。

貸借対照表の要旨 （2019年3月31日現在）

（円）

	科目	金額
資産の部	1 流動資産	22,258,470
	普通預金	6,579,083
	未収入金等	15,679,387
	2 固定資産	145,508,521
	特定資産	141,209,869
	公益目的保有財産	3,832,036
	その他固定資産	466,616
	資産の部合計	167,766,991

	科目	金額
負債の部	1 流動負債	19,028,058
	未払金等	19,028,058
	負債の部合計	19,028,058
正味財産の部	1 一般正味財産	7,529,064
	（うち当期一般正味財産増減額）	861,703
	2 指定正味財産	141,209,869
	（うち当期指定正味財産増減額）	▲ 13,883,441
	正味財産の部合計	148,738,933
	負債及び正味財産合計	167,766,991

貸借対照表、正味財産増減計算書（損益計算書）及び財産目録は、法令及び定款に従い、法人の財産及び損益の状況を適正に表示しているものと認めます。

監事 津久井 進　監事 藤井 美明

今後の展開

5年後の目標

子どもたちの高校卒業後の自立に寄与する効果的な学校外教育支援モデルを開発し、その支援モデルを全国の自治体の政策として広げることで、年間4.5万人（対象者の約10%）の経済困難な子どもたちに支援が届く状態を目指します。

そのために、CFCは、クーポン事業運営自治体及び民間団体・教育事業者・福祉機関等が地域内で適切に連携し、地域の子どもたちを支えるための基盤（プラットフォーム）の役割を果たします。

	3年後（2022年3月）		5年後（2024年3月）
クーポン利用者	クーポン利用申請率、利用率、利用満足度向上 中学・高校卒業後の進路満足度向上	▶	高校または大学等卒業後の自立 （高校・大学卒業後の就労継続状況）
国・自治体	学習支援型クーポン事業 モデル自治体政策導入	▶	全国の自治体での 学習支援型クーポン事業の政策化 課題特化型クーポン事業の公的制度化 （不登校生徒支援、海外にルーツのある子ども支援、自然体験活動等）
CFC	クーポン利用コーディネート機能向上 クーポン事業の運営基盤の強化 （クーポン電子システム化、人材育成） 課題特化型クーポン事業開発 （不登校生徒支援、海外にルーツのある子ども支援、自然体験活動等）	▶	経済困難家庭の子どもの学校外教育支援における基盤（プラットフォーム）確立

2019〜2021年度の活動

2022年度以降の全国での政策導入を見据えて、2019〜2021年度は以下の活動に注力します。

施策	施策の内容
1 自主事業の進化	クーポン利用コーディネーター（CFC職員）を育成し、クーポン利用率を向上させる
2 財務基盤の強化	自主事業のファンドレイジング強化を行う
3 協働事業の業務改革	協働事業の業務体制及び人材育成体制を見直し、クーポン利用率・申請率を改善する
4 効果検証事例の蓄積	研究者による事業の効果検証を行い、論文発表数を増やす
5 協働パートナー団体（クーポン運営団体、自治体）の育成	CFC職員、導入自治体職員、クーポン運営団体による勉強会を立ち上げる
6 クーポン電子システムの開発	紙券クーポンからクーポン電子システムを開発し、業務改革を行う
7 課題特化型クーポン事業の立ち上げ	子どもの特定課題に特化したクーポン事業を、各領域の支援団体と連携して立ち上げる （不登校生徒支援、海外にルーツのある子ども支援、自然体験活動等）
8 情報発信力の強化	全国でのクーポン事業の事例を、シンポジウム、白書やレポート制作等を通じて情報発信する
9 モデル自治体での政策導入	子ども支援政策に積極的な自治体において、モデル的に政策導入及び運営サポートを行う

CFCスタッフ等紹介

役員

代表理事
今井 悠介
当法人専従

代表理事
奥野 慧
当法人専従

理事
岩切 準
認定特定非営利活動法人
夢職人 理事長

理事
能島 裕介
特定非営利活動法人
ブレーンヒューマニティー
顧問

理事
水谷 衣里
株式会社 風とつばさ
代表取締役

監事
津久井 進
弁護士 ／ 弁護士法人
芦屋西宮市民法律事務所
代表社員

監事
藤井 美明
公認会計士

職員

近藤 有希
仙台事務局

武林 里穂
仙台事務局

吉岡 新
仙台事務局

入安 にろ
東京事務局

辻 和洋
東京事務局
情報発信チーム

山本 雅
東京事務局
情報発信チーム

有銘 佑理
関西事務局

石井 孝洋
関西事務局

岡田 拓也
関西事務局

アドバイザー

阿部 裕二 東北福祉大学総合福祉学部福祉行政学科 教授
小林 純子 特定非営利活動法人チャイルドラインみやぎ 代表理事
小林 庸平 三菱UFJリサーチ＆コンサルティング株式会社 主任研究員
駒崎 弘樹 認定特定非営利活動法人フローレンス 代表理事
佐藤 宏平 山形大学地域教育文化学部 准教授
佐藤 利憲 福島県立医科大学看護学部 講師
高橋 聡美 防衛医科大学校医学教育部 教授
武井 敦史 静岡大学大学院教育学研究科 教授
田村 太郎 一般財団法人ダイバーシティ研究所 代表理事
出村 和子 社会福祉法人仙台いのちの電話 理事 ／ 弘前学院大学 客員教授
苫野 一徳 熊本大学大学院教育学研究科 准教授
長尾 文雄 特定非営利活動法人ブレーンヒューマニティー 顧問
中室 牧子 慶応義塾大学総合政策学部 准教授
西田 正弘 特定非営利活動法人子どもグリーフサポートステーション 代表
半羽 利美佳 武庫川女子大学文学部心理・社会福祉学科 准教授
村田 治 関西学院大学長 ／ あしなが育英会 副会長
望月 優大 株式会社コモンセンス 代表取締役
門馬 優 特定非営利活動法人TEDIC 代表理事

パートナー

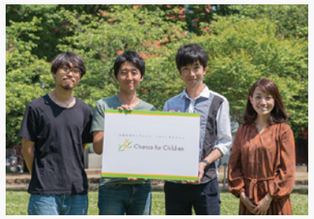
BrainHumanity 特定非営利活動法人ブレーンヒューマニティー

ハタチ基金 公益社団法人ハタチ基金

編集後記

情報発信チーム **山本 雅**

今回の報告書では、初めてブラザー・シスター（ブラシス）の活動にフォーカスした特集を組みました。子どもたちをサポートするお兄さん・お姉さんというと、「何かしてあげる立場」だと思いがちですが、ブラシスたちは「むしろ私たちが子どもたちから元気をもらっています」と話すことも多いです。私は、そんなブラシスのフラットな姿勢が、思春期の子どもたちと関係性を築く秘訣なのではないかと感じています。2018年度は、クーポンを利用していた子どもが高校を卒業して、ブラシスやCFCサポート会員になってくれたり、ブラシスの卒業生がCFCのスタッフとして戻ってきてくれたり、子どもたちやブラシスの成長を実感する年でもありました。2019年度は、CFCのプロジェクトが関西で発足して10年となります。これまで築いてきた温かな繋がりを大切にしながら、これからもスタッフ一丸となって、子どもたちを応援していきたいと思います。



情報発信チーム。左から、望月優大、今井悠介、辻和洋、山本雅。

ご支援のお願い

CFCは、寄付によって活動しています。
未来を担う子どもたちを支えるため、温かいご支援をお願いいたします。

CFCサポート会員へのお申込み

毎月1,000円からの継続的なご寄付で、
子どもたちの成長を支える方法です。

WEBで申し込む

CFCのWEBサイトから、クレジットカードか口座からの自動引落としを選択して、お申込みください。

CFC　寄付　検索　https://cfc.or.jp/support/

今回のみのご寄付

ご都合の良いときに、任意の金額を寄付する方法です。

クレジットカードで寄付する

専用のWEBページからお申し込みをお願いします。

CFC　寄付　検索　https://cfc.or.jp/support/

お振込みで寄付する

下記の口座へお振込みをお願いします。

銀行口座	金融機関	三井住友銀行 亀戸支店（支店コード：254）
	口座番号	普通 7862751
	口座名義	公益社団法人チャンス・フォー・チルドレン
ゆうちょ銀行（郵便振替）	口座番号	00160-6-265327
	口座名義	公益社団法人チャンス・フォー・チルドレン

※CFC東日本・CFC西日本などプロジェクトを選択して寄付をしたい場合は、プロジェクト名を通信欄に記載していただくか、チャンス・フォー・チルドレン事務局までご連絡ください。
※銀行口座へのお振込みの方で、領収書が必要な方は、チャンス・フォー・チルドレン事務局までご連絡ください。

Chance for Children

公益社団法人チャンス・フォー・チルドレン

仙台事務局　宮城県仙台市青葉区本町1丁目13-24 錦ビル7階
東京事務局　東京都江東区亀戸6丁目56-17 稲畠ビル3階
関西事務局　兵庫県西宮市甲風園1丁目3-12 カミヤビル3階

TEL: 022-265-3461（代表）　FAX: 022-265-3471（代表）　E-mail: info@cfc.or.jp

CFC　子ども　検索　https://cfc.or.jp/

チャンス・フォー・チルドレン（Chance for Children）　@bh_cfc

2019年8月発行